『戦史叢書』の来歴および概要

原　剛

敗戦後の混乱から徐々に冷静さを取り戻し始めた頃、旧陸海軍関係者などの中から、戦争という歴史的事実を後世に伝えるために、大東亜戦争史を編纂すべきであるとの声が高まり、昭和三〇年陸上自衛隊幹部学校内に戦史室が設置された。翌年防衛研修所戦史室となり、本格的に戦史編纂のための史料収集などが開始された。

敗戦による史料の焼却により、多くの貴重な史料が失われた後でのこの編纂作業は、大変な困難を伴うものであった。にもかかわらず、約一万五千人にのぼる旧軍人およびその関係者からの聴き取りと、厚生省から移管された約一万件の史料、米国から返還された約三万件の史料、独自に収集した約七万件の史料などを基にして、『大東亜戦争戦史叢書』全一〇二巻が、戦史室創設以来二五年目の昭和五五年に完成したのである。その後更に、史料集二巻が刊行された。

当初は、一〇年計画で史料の収集と戦史基礎案の編纂をする予定で作業が進められたが、昭和四〇年、基礎案を基にして、大東亜戦争史を全九一巻の『戦史叢書』として公刊することになり、翌昭和四一年に第一巻『マレー進攻作戦』が刊行された。

その後、逐次編纂・刊行が進むに従い、追加刊行の要請が加わり、全一〇二巻として刊行され、更に史料集二巻が追加刊行された。

この間、編纂に携わった編纂官・調査員は、一三四名で、そのほとんどが旧陸海軍人と自衛官であった。これらの編纂関係者は、公正で確実な史実を後世に遺すことを最大の方針として編纂に取り組んだ。また、数多くの研究会・審議会を実施し、客観性と正確性を期した。しかし、このような努力にも限界があることは否定できない。

現在、この、『戦史叢書』が、戦史研究上の最も基本的な文献として、多くの人々に活用されているということは、『戦史叢書』の刊行が極めて有意義であったことを証明するものであると云えよう。

『戦史叢書』全一〇二巻と史料集二巻の概要は以下のとおりである。

『戦史叢書』一覧

（巻号は刊行順に付けられたもの
☆印は陸軍関係★印は海軍関係）

開戦経緯シリーズ

大東亜戦争の開戦経緯について、大本営陸軍部は昭和一四年の欧州大戦発生から昭和一六年一二月の開戦までを、大本営海軍部は昭和六年から開戦までを、それぞれの立場で記述したもの。

☆第六五巻　大本営陸軍部大東亜戦争開戦経緯〈1〉

昭和一四年九月の欧州大戦勃発から昭和一五年八月までにおける、欧州の戦局、米内内閣の対外施策、支那事変解決の努力および第二次近衛内閣の新政策について記述。

☆第六八巻　大本営陸軍部大東亜戦争開戦経緯〈2〉

昭和一五年七月から同年一二月までにおける、日本軍の北部仏印進駐、日独伊三国同盟条約の締結、日蘭会商の推移、国内の新体制移行などについて記述。

☆第六九巻　大本営陸軍部大東亜戦争開戦経緯〈3〉

昭和一五年七月から昭和一六年六月までにおける、日本の対支持久戦転移、対仏印・泰施策、対南方施策要綱、日ソ中立条約の締結、日米交渉の開始などについて記述。

☆第七〇巻　大本営陸軍部大東亜戦争開戦経緯〈4〉

昭和一六年一月から昭和一六年九月までにおける、日蘭会商とその決裂、独ソ開戦にともなう関東軍の増強と南部仏印進駐、対米英蘭戦争の準備と決意の条件などについて記述。

☆第七六巻　大本営陸軍部大東亜戦争開戦経緯〈5〉

昭和一六年九月から同年一二月の開戦までにおける、日米交渉、東条内閣の国策検討、戦争計画策定準備の促進、開戦の決定などについて記述。

★第一〇〇巻　大本営海軍部大東亜戦争開戦経緯〈1〉

昭和六年から昭和一四年までにおける、海軍の体質の形成過程および満州事変・支那事変・日独伊防共協定強化問題・欧州大戦勃発などに対する海軍の態度と政戦略指導について記述。

★第一〇一巻　大本営海軍部大東亜戦争開戦経緯〈2〉

昭和一五年から昭和一六年の開戦に至るまでの間における、北部仏印進駐・日独伊三国同盟・日米および日蘭交渉・南部仏印進駐・開戦決意などをめぐる海軍の態度と政戦略指導について記述。

大本営陸軍部シリーズ

明治四年の陸軍創設から昭和一五年頃までの、陸軍の国防方針・用兵思想・軍制および軍備の推移、主要な戦争・事変の概要ならびに昭和一五年から昭和二〇年の終戦に至る間の大本営陸軍部の政戦略について記述したもの。

☆第八巻　大本営陸軍部〈1〉

陸軍の創設から昭和一五年頃までの、陸軍の国防方針・用兵思想・軍制および軍備の推移ならびに主要な戦争・事変の概要について通史として記述。

☆第二〇巻　大本営陸軍部〈2〉

欧州大戦の勃発から昭和一六年一二月の開戦決定までにおける、大本

営陸軍部の戦争指導について好機南進・南進停頓・南北併進・南進先行・南進突入の五段階に分けて記述。

☆第三五巻　大本営陸軍部〈3〉

大東亜戦争開戦時の全般情勢、開戦指導、初期作戦の戦果に基づく作戦指導、長期不敗態勢戦略についての陸海軍の意見調整などについて昭和一七年四月までの経緯を記述。

☆第五九巻　大本営陸軍部〈4〉

昭和一七年四月のドゥリットル東京空襲から、同年八月の連合国軍のガタルカナル島への反攻に至るまでの、中国・比島・ビルマ・東部ニューギニヤ戦線などについての大本営陸軍部の作戦指導を記述。

☆第六三巻　大本営陸軍部〈5〉

南東方面の戦局悪化と、それにともなう作戦遂行か国力造成かの問題ならびにガタルカナル島撤退を決意する昭和一七年末までの、大本営陸軍部の作戦・戦争指導について記述。

☆第六六巻　大本営陸軍部〈6〉

ガタルカナル島の撤退、アッツ島の玉砕、キスカ島の撤収、東部ニューギニヤの作戦など、連合国軍の反攻に対する作戦指導と困難な情勢下の政戦略指導について昭和一八年六月までを記述。

☆第六七巻　大本営陸軍部〈7〉

南東方面の戦線崩壊と太平洋方面の国防線後退を余儀なくされた情勢下で、連合国軍の反攻に対する態勢立直しのための、絶対国防圏の設定、国家総力戦体制の確立、大東亜会議の開催など昭和一八年末までの大本営陸軍部の政戦略指導について記述。

☆第七五巻　大本営陸軍部〈8〉

絶対国防圏の一角（マリアナ）が崩壊するとともにビルマでのインパール作戦に失敗し、東条内閣が総辞職する昭和一九年七月までの大本営陸軍部の作戦・戦争指導について記述。

☆第八一巻　大本営陸軍部〈9〉

捷号作戦準備と捷一号作戦・本土防衛作戦準備・中国大陸の一号作戦などの作戦指導について昭和二〇年一月までを記述。

☆第八二巻　大本営陸軍部〈10〉

本土空襲の激化、硫黄島および沖縄の作戦、対ソ作戦準備、本土決戦の準備、原子爆弾投下、ソ連の参戦などを歴て終戦に至る、大本営陸軍部の政戦略指導について記述。

大本営海軍部・聯合艦隊シリーズ

海軍の創設から昭和一六年一二月までの、海軍の国防・用兵思想および軍制・軍備の整備の概要ならびに大東亜戦争の開戦から終戦までの大本営海軍部の政戦略指導について記述したもの。

★第九一巻　大本営海軍部・聯合艦隊〈1〉

海軍の創設から昭和一六年一二月の大東亜戦争開戦までの、海軍の国防・用兵思想および軍制・軍備の整備の概要について、特に軍令事項を中心にして通史的に記述。

★第八〇巻　大本営海軍部・聯合艦隊〈2〉
ハワイ・マレー沖海戦から、ミッドウェー海戦の敗北までの海軍作戦計画と作戦指導およびその影響について記述。
★第七七巻　大本営海軍部・聯合艦隊〈3〉
ミッドウェー海戦敗北後の対策、連合国軍のソロモン方面来攻からガタルカナル島撤退までの作戦指導について記述。
★第三九巻　大本営海軍部・聯合艦隊〈4〉
ガタルカナル島撤退後の新作戦方針による戦略態勢の確立、連合国軍の進攻に対する防衛作戦、絶対国防圏の設定など、昭和一八年九月までの作戦指導について記述。
★第七一巻　大本営海軍部・聯合艦隊〈5〉
絶対国防圏の設定から、中部太平洋方面各部隊の玉砕、「あ」号作戦の失敗など、マリアナ諸島失陥による絶対国防圏の崩壊までの作戦指導について記述。
★第四五巻　大本営海軍部・聯合艦隊〈6〉
サイパン奪還計画の立案から比島沖海戦終了の昭和一九年一〇月までの作戦指導について記述。
★第九三巻　大本営海軍部・聯合艦隊〈7〉
昭和一九年一〇月末から昭和二〇年八月までの間における、比島決戦、本土周辺の作戦、本土決戦準備を経て終戦に至る作戦指導と戦争指導について記述。

軍戦備シリーズ

陸軍・海軍・陸軍航空の戦備に関する諸施策ならびに陸海軍航空の運用などについて記述したもの。
☆第九九巻　陸軍軍戦備
明治建軍以来の陸軍の軍備の沿革と、大正期から支那事変までの軍備の整備状況ならびに支那事変および大東亜戦争間の軍備の整備状況について記述。
☆第九巻　陸軍軍需動員〈1〉
大正六年から昭和一二年までの、陸軍軍需動員の計画準備の状況とその根拠となる法規ならびに総動員体制について記述。
☆第三三巻　陸軍軍需動員〈2〉
昭和一二年から終戦までの陸軍軍需動員、国家総動員法の施行による総動員体制の確立、ならびに戦争間の国力・戦力の低下の実態などについて記述。
★第三一巻　海軍軍戦備〈1〉
海軍創設以来の軍備の沿革と大正期以降から開戦前までの対米軍備充実状況を、兵力特に艦艇および航空機の整備・用兵思想・官制・人事・予算・燃料政策・出師準備計画などについて記述。
★第八八巻　海軍軍戦備〈2〉
大東亜戦争間における海軍の艦艇・航空機戦備を中心に、初期の大艦巨砲主義の戦備、航空優先戦備への転換、防衛戦備の強化、本土決戦準備期の特攻戦備について記述し、合わせて人的軍戦備、燃料問題、日独

海軍技術交流などについて記述。

★第九五巻　海軍航空概史

海軍航空の創設から昭和初期までの発展の概要、支那事変および大東亜戦争間における航空の制度・技術・教育訓練・用兵思想・主要作戦ならびに戦争間の急速な戦力低下の原因などについて記述。

☆第五二巻　陸軍航空の軍備と運用〈1〉

陸軍航空の創設から支那事変初期までの発展の概要を、編制・装備・用兵思想・作戦運用を中心にして記述。

☆第七八巻　陸軍航空の軍備と運用〈2〉

支那事変以降における、陸軍の航空軍備充実計画、部隊などの編成、用兵思想の統一および支那事変・ノモンハン事件・大東亜戦争緒戦における航空運用について記述。

☆第九四巻　陸軍航空の軍備と運用〈3〉

昭和一七年中期以降の連合国軍の本格的反攻から終戦までの、陸軍航空の急速増強、特攻戦備、用兵思想の変化および主要作戦における航空運用について記述。

☆第八七巻　陸軍航空兵器の開発・生産・補給

陸軍航空の創設から大東亜戦争の終戦までにおける、航空兵器の研究開発・生産体制および大東亜戦争における航空兵器の補給について記述。

進攻作戦シリーズ

昭和一六年一二月から昭和一七年六月までの、大東亜戦争初期における南方諸地域への進攻作戦およびハワイ作戦の作戦戦闘経過について記述したもの。

☆第一巻　マレー進攻作戦

昭和一六年一二月、マレー半島に奇襲上陸し、シンガポールを攻略した第二五軍の作戦指導と隷下各部隊の作戦戦闘について記述。

☆第二巻　比島攻略作戦

昭和一六年一二月、フィリピンに上陸し、フィリピン各地を掃討するとともにバターン半島・コレヒドール要塞を攻略した第一四軍の作戦指導と隷下各部隊の作戦戦闘について記述。

☆第三巻　蘭印攻略作戦

昭和一六年一二月以降、北ボルネオ・ボルネオ南部・セレベス・スマトラ南部・チモール・ジャワを攻略した第一六軍などの作戦指導と各部隊の作戦戦闘について記述。

☆第五巻　ビルマ攻略作戦

大東亜戦争開戦前のビルマ問題、開戦後のビルマ攻略、スマトラ・アンダマンの攻略など主として第一五軍の作戦指導ならびに昭和一八年中期までのビルマ独立運動について記述。

★第一〇巻　ハワイ作戦

米国太平洋艦隊主力を壊滅させたハワイ奇襲作戦の発想から作戦実施までの全貌を記述。

★第二四巻　比島・マレー方面海軍進攻作戦

大東亜戦争緒戦における海軍の南方要域攻略作戦のうち、前半のフィ

リピン航空撃滅戦、マレー半島奇襲上陸作戦、マレー沖海戦について記述。

★第二六巻　蘭印・ベンガル湾海軍進攻作戦

海軍の南方要域攻略作戦の後半にあたるジャワ攻略作戦、インド洋の制圧作戦などについて記述。

★第四三巻　ミッドウェー海戦

ミッドウェー作戦を実施するに至った経緯、作戦の経過、作戦失敗の原因および作戦失敗の影響とその対策などについて記述。

☆第三四巻　南方進攻陸軍航空作戦

大東亜戦争緒戦における、マレー・フィリピン・ジャワ・ビルマ方面の陸軍の各航空作戦およびパレンバン空挺作戦などについて記述。

ソロモン・ニューギニヤ方面作戦

日本軍の南太平洋進出にともなう、連合国軍の反撃によって生起した陸海軍の諸作戦について記述したもの。

☆第一四巻　南太平洋陸軍作戦〈1〉

昭和一七年一月のラバウル攻略から昭和一七年九月までにおける、ソロモン・東部ニューギニヤ方面の陸軍諸作戦について、特にポートモレスビー攻略作戦およびガタルカナル島の初期作戦を重点に記述。

☆第二八巻　南太平洋陸軍作戦〈2〉

昭和一七年一〇月から昭和一八年二月までにおける、第八方面軍の進出、ガタルカナル島の攻防および同島からの撤退、東部ニューギニヤのブナ付近の作戦について記述。

☆第四〇巻　南太平洋陸軍作戦〈3〉

昭和一八年三月から同年一〇月までの、中部ソロモンのムンダ周辺の作戦と東部ニューギニヤのサラモア付近の作戦を中心に記述。

☆第五八巻　南太平洋陸軍作戦〈4〉

昭和一八年九月から昭和一九年三月までにおける、東部ニューギニヤのフィンシハーヘン、北部ソロモン、ブーゲンビル島タロキナ、ニューブリテン島ツルブ付近の作戦について記述。

☆第八四巻　南太平洋陸軍作戦〈5〉

昭和一九年四月から終戦までにおける、南太平洋方面の持久作戦、特に中部ニューギニヤのアイタペ、ニューブリテン島のプリアカの作戦およびラバウル付近の作戦について記述。

★第四九巻　南東方面海軍作戦〈1〉

昭和一七年初頭から同年八月までの南東方面における、南方要地の攻略、珊瑚海海戦、第一次・第二次ソロモン海戦などの諸作戦について記述。

★第八三巻　南東方面海軍作戦〈2〉

昭和一七年八月から昭和一八年二月までにおける、南太平洋海戦、第三次ソロモン海戦、ガタルカナル島奪回作戦、同島撤退作戦にともなう諸海戦および航空戦について記述。

★第九六巻　南東方面海軍作戦〈3〉

ガ島撤退後の昭和一八年三月から終戦までの、ラバウルを中心とし

た航空決戦、中部ソロモンをめぐる攻防、ブーゲンビル島沖海空戦など海軍の南東方面諸部隊の作戦戦闘について記述。

☆第七巻　東部ニューギニヤ方面陸軍航空作戦

昭和一七年九月から終戦までの、ラバウルおよびウエワクを中心にした東部ニューギニヤ方面の陸軍航空作戦ならびに苦戦の原因について記述。

☆第二二巻　西部ニューギニヤ方面陸軍航空作戦

昭和一八年後半から昭和一九年末までの、中部および西部ニューギニヤ方面における第四航空軍の作戦戦闘について記述。

中部太平洋方面作戦シリーズ

中部太平洋方面における陸海軍の戦略要点の攻略、戦備強化およびその玉砕的戦闘の様相を記述したもの。

☆第六巻　中部太平洋陸軍作戦〈1〉

大東亜戦争開戦初頭における中部太平洋戦略要点の攻略、連合国軍の反攻にともなう戦備強化、絶対国防圏のサイパン・グアム・テニアンにおける陸軍の作戦戦闘について記述。

☆第一三巻　中部太平洋陸軍作戦〈2〉

絶対国防圏の一角が崩壊した昭和一九年七月から昭和二〇年二月までの、中部太平洋の陸軍諸作戦、特にペリリュー・アンガウル・硫黄島など玉砕した島々の作戦戦闘について記述。

★第一二巻　マリアナ沖海戦

米機動部隊のトラック・マリアナ空襲、パラオ方面来襲、「あ」号作戦準備および日米が主力艦隊を投入した戦ったマリアナ沖海戦について記述。

★第三八巻　中部太平洋方面海軍作戦〈1〉

大東亜戦争開戦初頭から昭和一七年五月までにおける、中部太平洋方面で実施した海軍の第一段作戦のウェーク・グアム攻略作戦および第二段諸作戦について記述。

★第六二巻　中部太平洋方面海軍作戦〈2〉

昭和一七年六月から終戦までの中部太平洋方面で海軍が実施した、ガタルカナル島撤退作戦、米機動部隊に対する反撃作戦、玉砕した島々の戦闘などについて記述。

南西方面防衛作戦シリーズ

豪北方面およびジャワ・スマトラ・ボルネオ・マレー方面の防衛作戦について記述したもの。海軍関係はフィリピン以南・インド洋をもこの地域に含めており、陸軍航空はこの地域の作戦をビルマ作戦シリーズに含めている。

☆第二三巻　豪北方面陸軍作戦

昭和一七年五月から昭和一九年七月までにおける、バンダ海周辺および西部ニューギニアの作戦、特に第二方面軍の作戦指導について記述。

☆第九二巻　南西方面陸軍作戦

昭和一七年五月から終戦までにおける、マレー・蘭印方面の防衛作戦、

特に第七方面軍の作戦指導、併せて南方の軍政の概要について記述。

★第五四巻　南西方面海軍作戦

南方進攻作戦終了後から終戦に至る、フィリピン以南、西部ニューギニアからベンガル湾までの海軍諸部隊の作戦、飛行基地設定、地上戦闘などについて記述。

ビルマ方面作戦シリーズ

ビルマ攻略作戦以降終戦までのビルマ方面における陸軍の諸作戦および泰・仏印方面の防衛作戦について記述したもの。海軍のインド洋方面の作戦については「南西方面海軍作戦」に記述。

☆第一五巻　インパール作戦

ビルマ防衛のために陸軍が実施した、第一次アキャップ作戦、フーコン作戦、ウィンゲート旅団掃討作戦、第二次アキャップ作戦、インパール作戦などについて記述。

☆第二五巻　イラワジ会戦

ビルマの防衛が破綻した、インパール退却作戦、雲南作戦、イラワジ会戦、メイクテイラ失陥などについて記述。

☆第三二巻　シッタン・明号作戦

ビルマ戦線の崩壊、ビルマ方面軍の総退却、第二八軍のシッタン河突破作戦などを経て終戦に至るビルマ方面の作戦ならびに明号作戦を中心とする泰・仏印の防衛作戦について記述。

☆第六一巻　ビルマ・蘭印方面第三航空軍の作戦

ビルマ方面および蘭印方面を担当した陸軍航空（第三航空軍）の昭和一七年七月以降の主要作戦について記述。

北東方面作戦シリーズ

アリューシャン作戦および千島・樺太・北海道の対米作戦準備ならびに終戦直前の千島・樺太におけるソ連軍の侵攻に対する防衛戦について記述。

☆第二一巻　北東方面陸軍作戦〈1〉

アッツ島の玉砕、キスカ島の撤収作戦を中心に、昭和一八年五月までの北東方面の陸軍作戦について記述。

☆第四四巻　北東方面陸軍作戦〈2〉

昭和一八年五月から終戦までの、千島・樺太・北海道における対米作戦準備ならびに終戦直前の千島・樺太におけるソ連軍の侵攻に対する陸軍の防衛戦について記述。

★第二九巻　北東方面海軍作戦

海軍が実施したドゥリットル東京空襲を動因とするアリューシャン攻略作戦、米軍の反攻を受けてのアッツ沖海戦、キスカ撤収作戦について記述。

満州方面作戦シリーズ

日露戦争以降の関東軍の対ソ戦備の変遷、ノモンハン事件に代表される国境紛争事件および終戦直前のソ連軍の侵攻に対する防衛戦について

記述したもの。

☆第二七巻　関東軍〈1〉

日露戦争以降からノモンハン事件までの、関東軍の対ソ戦備の変遷および国境紛争事件について特に張鼓峰事件・ノモンハン事件を重点に記述。

☆第七三巻　関東軍〈2〉

昭和一六年以降から大東亜戦争終戦までの、関東軍特種演習、対ソ戦備の強化と南方への兵力転用にともなう対ソ作戦方針の転換、終戦直前のソ連軍の侵攻に対する防衛作戦について記述。

☆第五三巻　満州方面陸軍航空作戦

昭和六年九月の満州事変から大東亜戦争終戦までの、陸軍の対ソ航空戦備の変遷、満州事変・ノモンハン事件および終戦直前のソ連軍の侵攻に対する航空作戦について記述。

中国方面作戦シリーズ

昭和一二年七月の支那事変勃発から昭和二〇年八月の終戦までの中国大陸における陸海軍の政戦略と主要な作戦の経過およびその指導について記述したもの。

☆第八六巻　支那事変陸軍作戦〈1〉

支那事変勃発前の情勢および勃発から南京攻略戦までの陸軍の政戦略と作戦経過について記述。

☆第八九巻　支那事変陸軍作戦〈2〉

昭和一三年一月から昭和一四年九月までにおける、拡大化する支那事変の政戦略ならびに徐州会戦、武漢攻略戦、広東攻略戦など陸軍の諸作戦について記述。

☆第九〇巻　支那事変陸軍作戦〈3〉

昭和一四年九月から大東亜戦争に突入する昭和一六年一二月までの支那事変の政戦略、事変の早期解決を企図して実施された陸軍の諸作戦および長期持久への移転とその作戦について記述。

☆第四七巻　香港・長沙作戦

昭和一六年一二月の大東亜戦争開戦時に実施された陸軍の香港攻略作戦とその前後に実施された第一次・第二次長沙作戦について記述。

☆第五五巻　昭和一七・八年の支那派遣軍

浙贛作戦、江北・江南殲滅作戦、常徳作戦など支那派遣軍の中支方面における作戦について記述。

☆第四巻　一号作戦〈1〉河南の会戦

昭和一九年春から二〇年春に亘って支那派遣軍が実施した一五〇〇キロに及ぶ大陸縦貫作戦（一号作戦）の、実施に至る経緯と一号作戦の初期作戦である河南の進撃作戦（京漢作戦）について記述。

☆第一六巻　一号作戦〈2〉湖南の会戦

一号作戦の前段作戦である湘桂作戦の前半、即ち長沙・衡陽に対する攻略作戦について記述。

☆第三〇巻　一号作戦〈3〉広西の会戦

一号作戦の前段作戦である湘桂作戦の後半、即ち桂林・柳州に対する

攻略作戦について記述。

☆第四二巻　昭和二〇年の支那派遣軍〈1〉

昭和二〇年三月までの一号作戦後段の南部粤漢作戦および老河口作戦について記述。

☆第六四巻　昭和二〇年の支那派遣軍〈2〉

昭和二〇年から終戦までに支那派遣軍が実施した諸作戦、特に芷江作戦、対米作戦準備への転移、関東軍への増援などについて記述。

★第七二巻　中国方面海軍作戦〈1〉

明治中期以降の中国方面における海軍の警備状況と支那事変初期の昭和一三年三月までの海軍の作戦について記述。

★第七九巻　中国方面海軍作戦〈2〉

昭和一三年四月から大東亜戦争終戦までの中国方面における海軍の作戦について記述。

☆第七四巻　中国方面陸軍航空作戦

支那事変勃発から大東亜戦争終戦までの、陸軍航空部隊が実施した中国大陸における長期連続の地上作戦協力と間欠的な奥地戦略爆撃について記述。

☆第一八巻　北支の治安戦〈1〉

支那事変勃発から昭和一六年まで、支那駐屯軍・北支那方面軍が実施した中国共産党軍に対する治安対策および治安戦について記述。

☆第五〇巻　北支の治安戦〈2〉

大東亜戦争勃発から終戦まで、北支那方面軍が実施した中国共産党軍に対する治安対策および治安戦について記述。

比島決戦シリーズ

陸海軍が決戦を企図して実施した比島捷号作戦の、実施に至る経緯と作戦指導および作戦経過について記述したもの。

☆第四一巻　捷号陸軍作戦〈1〉

サイパン奪回断念時からの陸軍の捷号決戦準備およびレイテ決戦に至る経緯と決戦の様相について記述。

☆第六〇巻　捷号陸軍作戦〈2〉

ルソン決戦準備とルソン島守備各兵団の作戦戦闘および中南部フィリピンと離島守備各部隊の戦闘について記述。

★第三七巻　海軍捷号作戦〈1〉

「あ」号作戦後の海軍の決戦準備および作戦計画ならびに台湾沖航空戦について記述。

★第五六巻　海軍捷号作戦〈2〉

フィリピン沖海戦から比島作戦終了までの海軍作戦ならびに神風特別攻撃隊の活躍について記述。海軍地上部隊の戦闘については「南西方面海軍作戦」に記述。

☆第四八巻　比島捷号陸軍航空作戦

昭和一九年一〇月から昭和二〇年一月までの、第四航空軍の作戦とその後の残存地上勤務員の地上戦闘および航空特攻について記述。

沖縄決戦シリーズ

本土防衛のため、本土周辺で実施された陸海軍の作戦戦闘について記述したもの。

☆第一一巻　沖縄方面陸軍作戦

昭和一九年初めから昭和二〇年六月までにおける、第三二軍の作戦準備、沖縄本島の作戦戦闘および周辺離島の戦闘について記述。

★第一七巻　沖縄方面海軍作戦

沖縄方面における海軍の航空・海上・水中特攻作戦採用の経緯および作戦実施の状況について記述。

☆第三六巻　沖縄・台湾・硫黄島方面陸軍航空作戦

沖縄戦における陸軍航空特攻と台湾・硫黄島方面の地上・海上作戦に関連する陸軍航空作戦について記述。

本土方面作戦シリーズ

本土防衛のため実施した陸軍の関東地方および南九州地方の決戦準備および海軍内線部隊の決戦準備ならびに陸海軍の本土防空作戦について記述したもの。

☆第五一巻　本土決戦準備〈1〉

昭和一九年春以降の陸軍の本土決戦準備について　主として関東地方を中心に記述。

☆第五七巻　本土決戦準備〈2〉

昭和一九年春以降の陸軍の本土決戦準備について　主として九州地方を中心に記述。

★第八五巻　本土方面海軍作戦

大東亜戦争間に海軍内線部隊が実施した外線部隊に対する支援、B―二九に対する本土防空作戦、本土周辺における諸作戦および本土決戦準備について記述。

☆第一九巻　本土防空作戦

大正時代から大東亜戦争終戦までの、陸軍の本土防空体制および大東亜戦争における陸軍の実施した本土防空作戦について記述。

特殊戦史シリーズ

★第四六巻　海上護衛戦

わが国の海上交通保護に関する、作戦運用思想、技術、装備などについて、大東亜戦争を重点に記述。

★第九八巻　潜水艦史

わが国における潜水艦・潜水艦部隊・潜水艦用法などの変遷の概要と大東亜戦争間に実施した潜水艦戦について記述。

☆第九七巻　陸軍航空作戦基盤の建設運用

陸軍航空創設以来の飛行場設定、航空情報、航空整備・修理、航空保安、気象、航空路、給養、衛生、被服などの変遷について記述。

☆★第一〇二巻　陸海軍年表

昭和一二年七月の支那事変勃発から昭和二〇年一二月の陸海軍省廃止までの陸海軍に関する総合年表、兵語・用語の解説、秘匿作戦名称、特

別の地名、軍隊符号、陸海軍の組織、編制などを収録。

史料集

☆史料集　南方の軍政

南方の占領地域において施行した陸軍の軍政に関する史料（政府および陸軍関係）を収録したもの。

★史料集　海軍年度作戦計画

海軍が策定し裁可を得た昭和一一年度～昭和一五年度の帝国海軍年度作戦計画と昭和一六年一〇月裁可を得た対米・英・蘭戦争帝国海軍作戦計画の原本を、解説を付けて復刻したもの。